

銀輪一団 伝統つなぐ



千里浜なぎさドライブウェイ
を疾走するサイクリスト
—羽昨市千里浜町

ツール・ド・のど開幕



初日は570人

北國新聞創刊130周年記念の
やくまん毅ブレゼンツ第35回ツ
ール・ド・のど400(同実行

委、北國新聞社主催)は3連休
初日の16日、金沢市の石川県西
部緑地公園を発着点に3日間の
日程で開幕した。明治時代、北
陸で初めて開催された長距離ロ
ードレース「自転車大競走」を
源流とする伝統の大会。全国か
ら集まったサイクリスト約57
0人は住民の応援を背に加速
し、初秋の能登路を駆け抜けた。

【2、3面に日曜特番】

金沢—輪島 140キロ

明治の大競走、熱気を今に

能登半島を3日間で一周
するツール・ド・のどは、
総距離が400キロを超える
過酷で知られ、愛好者の
憧れとなっている。今大会
も全国レースを転戦する著
名選手を含め、8歳から87
歳までの挑戦者が集まっ
た。
色鮮やかなウェアに身を
包んだ選手は、号砲とともに
に具西部緑地公園を出発。
軽快にペダルを踏んで潮風
が吹く千里浜なぎさドライ
ブウェイなどを走り抜け、
初日のゴールとなる136
・9キロ先の輪島市マリンタ
ウンを目指した。きらめく
銀輪の一団に、沿道の住民
も手を振って応援し、自転
車の祭典を楽しんだ。
2日目の17日は七尾市ま
での136・1キロ、最終日
の18日は水見市を經由して
ゴールの金沢市までの13
8・2キロを走る。初日は、
輪島をゴールとする1日コ
ース、志賀町まで65キロのハ
ーフコースも行われた。
大会は1906(明治39)

年に北國新聞社が主催した
「自転車大競走」に歴史の
起源を持つ。世界最高峰の
ツール・ド・フランスが初
めて開催されてからわずか
3年後の開催で、県内は熱
気に沸いた。開会式では、
西本東介北國新聞社事業局
長、村山卓金沢市長、川原
範夫金沢医科大学院長の順
であいさつし、歴史を受け
継いで走るサイクリストに
エールを送った。